

「黒鯛を鶴岡市の魚に制定する会」

ここ庄内は魚拓発祥の地であり、250年以上も前から黒鯛釣りが盛んにおこなわれてきた歴史があります。

かつて江戸時代には庄内藩主が心身鍛練のため黒鯛釣りを奨励しており、現代では市内の小学校が秋になると早朝徒歩で加茂地区まで行き磯釣りを楽しむ「磯釣り遠足」なるものも存在していたほど、庄内では黒鯛釣りの文化が根付いていた地域です。

かつて庄内の釣り人は春の「のっこみ」時期の釣りはあまり行いませんでしたが、釣り道具・釣りえさの進化に伴い、厳冬期をのぞきほぼ通年黒鯛釣りが行われています。又、最近ではメーカー等が主催する釣り大会やイベントが釣果が見込める春の時期に集中して行われている状況です。地元釣り人も、これらのイベントを楽しみにしている方々も大勢います。

この先も庄内で黒鯛釣りを楽しんで行くにあたり、この状況が続いては黒鯛の個体数にも影響がでるのでは、と言う意見がいろいろなところから聞こえて来るようになりました。かつて他県においても同様の問題が発生し、撒き餌が禁止になった所もあると聞いております。

平成17年10月に鶴岡市に合併された旧温海町では「黒鯛」が町の魚に指定されており、県の漁業栽培センター・水産試験場・地元釣クラブ等が主体となり黒鯛稚魚放流等の活動が行われておりますが、合併後は釣り人口の減少・景気悪化等の影響から黒鯛稚魚放流活動の縮小及び廃止も検討されている状況です。

この状況をなんとかしたいと昨年来より「黒鯛を鶴岡市の魚に制定」する活動を進めてきました。「市魚」に制定されれば資源確保の為の稚魚放流活動にも今以上に力を入れてゆけると考えております。

昨年9月の鶴岡市議会では、「鶴岡市の魚制定」についての質問が提出され、かなり前進したと感じております。

今年春にはクラゲの飼育で有名な「加茂水族館」のリニューアルも控えており、又、平成28年度には「豊かな海づくり大会」も山形県で開催される事が決まっております。

ここ庄内で愛されている黒鯛釣りの文化を守ってゆく為、黒鯛資源の確保の為にも、合併後の鶴岡市でも「黒鯛を市の魚に制定」して頂き、黒鯛の稚魚放流も活性化させてゆきたいと考えております。

平成26年2月

「黒鯛を鶴岡市の魚に制定する会 有志一同」